シリーズ①

『第５次小郡市総合振興計画』を策定しました

はじめに

現在わが国は地方分権・地域主権の時代へと変革しつつあり、少子高齢化や国際化・高度情報化の急速な進展、環境問題、財政状況の悪化といった様々な課題に直面しています。このような課題に対応し、限りある財源を最大限に活かしたまちづくりに取り組んでいくため、これまでの施策の成果と反省を踏まえ、３月定例市議会での議決を経て、「第５次小郡市総合振興計画（平成23年度～32年度）」を策定いたしました。

新たな総合振興計画は、市政の目標とその実現に向けた方策を明確にし、計画的かつ持続的なまちづくりを推進するための本市の根幹となる長期的な計画です。

今回策定しました計画の概要を、２回にわたりご紹介します。

計画の役割と構成、期間

本計画は、基本構想（10年計画）と前期基本計画（５年計画）から構成されています。基本構想は、市政運営を総合的かつ計画的に行う指針となるものであり、将来像及びそれを実現するために必要な施策の大綱を明らかにするものです。また、前期基本計画は、基本構想に掲げる将来像を実現するため、施策の大綱に従い、取り組むべき主要な施策を分野ごとに明らかにするものです。

計画の構成と期間

◆基本理念 「市民との協働によるまちづくり」

「市民との協働によるまちづくり」とは、自分たちの地域のことは、自分たちで知恵を出して考え、自分たちで決定し、自分たちの力で実践して、みんなで責任を持ちながら助けあい、支えあい、そして認めあっていく地域社会を実現していくことです。

第５次計画では、多様化する市民ニーズや複雑化する課題に対応していくために、市民と行政が情報を共有し、ともに解決に向けて方策を探りながら、一体となってまちづくりに取り組んでいくことを目指します。

▼市民との協働のまちづくりのイメージ

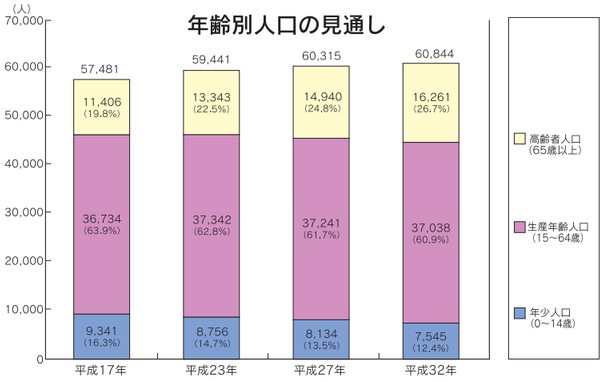
◆将来像 「人が輝き、笑顔あふれる 快適緑園都市・おごおり」

「人が輝き」は、すべての市民がその存在を等しく認められ、健康でいきいきと人生を謳歌している姿を、「笑顔あふれる」は、子どもから大人まですべての市民が多様な交流の場を通じてふれ合うことで、心豊かで健康な生活を送ることができ、まちに笑顔があふれ、活気が生まれることを現しています。また、「快適緑園都市」は、花立山などの自然を残しながら、交通環境や生活環境が整っている、誰もが住みたくなるような住環境を現しています。

第５次計画では、市民一人ひとりがまちづくりの担い手となり、地域に残された文化やこれまで育んできた七夕の里を継承し、夢のある未来を思い描きながら、将来像を市民との協働で実現していくことを目指します。

◆目標人口 平成32年度65、000人

平成21年10月１日現在の住民基本台帳人口（外国人も含む）は59、308人となっています。人口は、昭和50年の36、914人から60％以上増加しています。

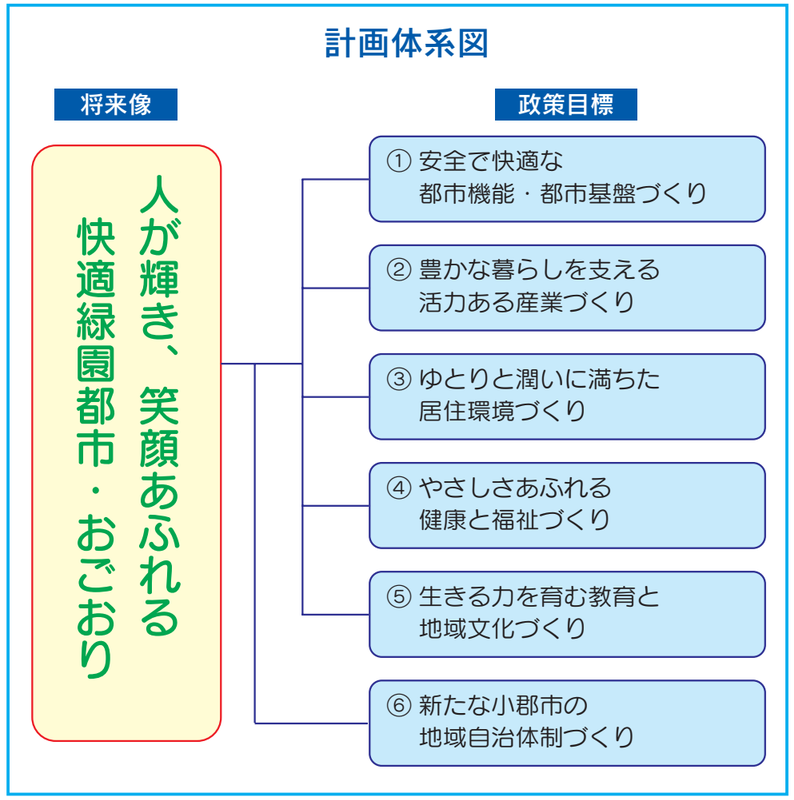


平成17年の国勢調査に基づき、コーホート変化率法により年齢別人口を推計すると、本計画の目標年次である平成32年の市の総人口は60、844人です。今後、施策の推進による人口の増加で市全体が活性化し、市民とともに協働によるまちづくりを実現していきたいという願いを込めて、本計画の目標年次である平成32年度の目標人口を65、000人と設定しています。

6つの政策目標

第５次計画では、将来像の実現に向け、次の６つの政策目標を設定しています。次回（シリーズ②）は、各政策目標の概要等についてご紹介します。

計画体系図



※本計画につきましては、準備ができ次第、市ホームページに掲載する予定です。

●問い合わせ先
企画課企画政策係
☎72・2111（内線224）